

ロバストなビッグデータ利活用基盤技術の研究開発

ネットワーク上にある特定のサーバやデバイス（以下「エンドノード」という。）や通信経路への負荷の集中を回避し、ネットワーク全体で効率的な処理を行うため、ネットワークのエンドノードによる自律的な接続経路設定、信頼性や機密性を確保した分散蓄積及び分散処理を可能とするビッグデータ利活用基盤技術の確立を目指す。

1 施策の概要

- (1) センサやスマートフォン等から生成される多種多量データについて、トラヒックや処理の集中を回避するために、トラヒックを分散させるようネットワークの各エンドノードが自律的に通信経路を設定する技術や、多数のエンドノードのリソースを連携させてデータを蓄積、処理する技術等のビッグデータの利活用基盤技術の確立が求められる。
- (2) 本研究開発では、ネットワークのエンドノードによる自律的な接続経路設定や信頼性や機密性を確保した分散蓄積及び分散処理を可能とする、自律分散ネットワーク構築技術、自律分散ストレージ構築技術、自律分散処理技術の確立を目指す。

2 イメージ図

